

楠田 大蔵市長

40歳を迎える市職員

太宰府市と同じ年ということは知っていましたか？

宮垣.. 幼少期、両親からそう聞いて育ちました。太宰府の実家もちょうど築40年。思い入れのある環境で暮らしてきました。

古川.. 当時太宰府町の職員として働いていた父から聞いて知っていました。現在では、町から市への変遷とともにあった父と同じ仕事に就いています。

浅田.. 市役所に入庁した時に同じ昭和57年生まれだと知りました。職員として勤めるなかで市制30周年を迎えたとき、あらためて意識するようになりました。

市長.. それぞれの思い入れがありますね。市の発展とともに成長してきた皆さんの様子がつぶさにうかがえる素晴らしいエピソードです。

浅田.. 自然がたくさんあって住みやすいまちです。子育てをしていて、子どもを連れて気軽に遊びに行ける場所が多いので、そう実感します。

古川.. 史跡地で子どもが自由に遊べるのは太宰府の大きな良さです。大人になって、自分たちが慣れ親しんでいたのは歴史的に価値のあるすごい場所だったとわかって驚きます。

市長.. 生活する人にとって住みやすく、歴史的・文化的にも恵まれたまちということですね。

宮垣.. そう思います。家族で遠出しようとするときは交通アクセスの良さも感じるので、便利で新しいと古き良きが共存するまちでもあります。

これまでの40年、太宰府でどんな思い出がありましたか？

古川.. 市民運動会は思い出です。毎年秋に地域の子どもから大人までが参加して本気で競い合っていました。現在はスポーツの日として開催される行事にスポーツ課職員として携わっています。

宮垣.. コミュニティバスまほろば号の運行が始まって、高校時代に行動範囲が広がったのを覚えています。当時は先進的な試みで九州で運行するコミュニティバスの中でも先駆けだったそうです。

市長.. 浅田さんは近隣の市の出身ながら太宰府市役所が第一志望で入庁したと聞きましたが、何かきっかけになる思い出があったのですか？

浅田.. 幼い頃に家族と一緒に太宰府政庁跡で遊んだ思い出があります。歴史と緑が豊かなところに憧れていたのが太宰府市を志望しました。

市長.. 50周年まであと10年。その時皆さんも50歳を迎え、市役所の中核で働く世代になりますが、どんな太宰府であってほしい、どういう自分でありたいですか。

宮垣.. 全世代が愛着をもって住みつづける太宰府であってほしいです。現在取り組む地域コミュニティ課での仕事を通して、地域のつながりやまちの魅力を広げていきたいです。

古川.. 幼少期、史跡地を遊び場として走り回っていた経験を自分の子どもにもさせてあげたいです。10年後も、先人が積み上げてきた太宰府の良さが変わらないように守り伝えていきたいです。

浅田.. 人口の面でも、同じ世代の人にぜひ移住してきてほしいです。自然に恵まれていながら都市部へのアクセスも抜群で子育てしやすいです。知り合いにすすめると移り住んでくれた人もいました。これからは太宰府の住みやすさを広めたいです。

市長.. 自らの目標や未来像が明確で頼もしいですね。私も市長として市や市で暮らし働く皆さん、そして子どもたちがこれからも飛躍できるように、中学校完全給食の開始や更なる経済税収効果の向上などに力を注いでいきます。これからは市の為市民の為に力を合わせて頑張りましょう！

令和4年度市制施行40周年を迎えた太宰府市。今回はその節目に、市制施行と同じ年に生れて、現在は市職員として働く3人と楠田市長が座談会を行いました。



地域コミュニティ課 宮垣 大夢

太宰府市長 楠田 大蔵

保育児童課 浅田 裕子

スポーツ課 古川 吾一